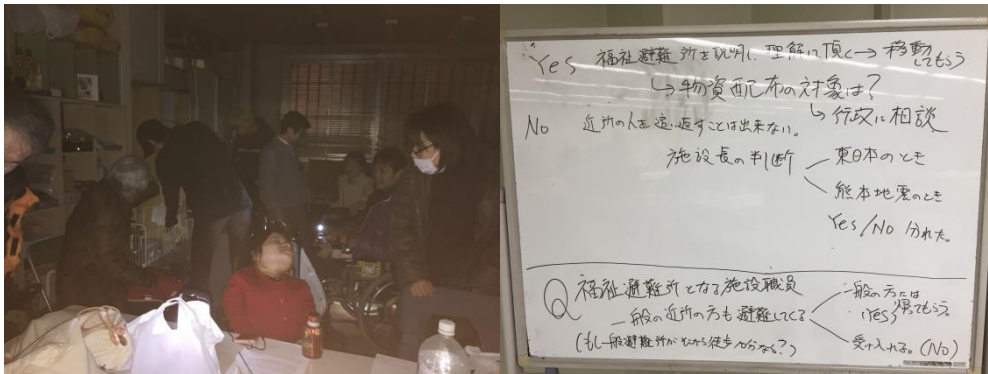


地域福祉×災害想定×住民参加

「災害時の地域施設運営シミュレーション 体育館一泊体験」



災害時に地域の体育館や福祉施設はいろいろと事情ある。

非常時だからこそ、どんな人でも安心して避難生活を過ごせる運営がいま改めて問われています。

Q：災害時、地域施設には、どんな人が来るかな？

運営の主体となる地域住民や施設運営者。移動や情報共有、生活に困難を抱える高齢者・障がい者・子ども・ケガ人や病人・日本語が母語ではない人。地域とのつながりが薄い住民。たまたま被災地域にいた帰宅困難者。

Q：80人規模のシミュレーションって、どんなことするの？

- ・避難してくる人にはどのような人がいるのかを想定し、各々へ必要な配慮について挙げてみよう。
- ・どの場所でどう受付していくと整理がつくのか、受付に必要な道具の確保もしよう。
- ・体育館のフロアをどのようなスペース分けと通路確保を行ってみよう。
- ・避難者にも主体的に運営へ参加してもらうためにはどのような役割分担を？

★地域住民や地域福祉専門家と障がい当事者、子ども連れ、一般からの参加者等、いろんな人が80人集まって、避難生活するときの実践とまとめを体感できる一泊体験です。

日時：2018年8月25日（土）午後6時～26日（日）午前11時

会場：らいとぴあ21（箕面市立萱野中央人権文化センター）箕面市萱野1-19-4

「千里中央駅」より阪急バス「萱野三平前」・「萱野小学校前」「かやの中央」より徒歩10分

定員：80人（申し込み方法は裏面をご参照ください）

参加費：無料

主催・問い合わせ先：日常生活支援ネットワーク TEL/FAX：06-4400-4387 p2party2@gmail.com

運営：BCP研究会 協力：ゆめ風基金 / 箕面市立萱野中央人権文化センター